

地域版女性リーダー育成プログラム 「決める・動く」



仙台市と（公財）せんだい男女共同参画財団は、町内会やNPOなど地域に活動の場を持つ女性たちが、それぞれの現場で自分らしいリーダーシップを発揮していくための研修事業に取り組んでいます。

プログラムが生まれた背景

2011年の東日本大震災では、避難所運営や復興の過程で女性が十分にリーダーシップを発揮することができない場面が多くみられました。震災で体験した女性たちの困難を二度と繰り返さないためには、**平常時から女性たちが防災・まちづくりの担い手として意思決定の過程に加わる**ことが重要です。2015年の第3回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組2015-2030」では、**女性たちのリーダーシップを促進**することの重要性が盛り込まれました。



「決める・動く」は、「仙台防災枠組」に関する具体的な取り組みとして2016年にスタート。災害に強く、誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて**平常時から女性が地域の中で力を発揮していくための研修事業**となっています。

プログラム概要

■ 実施期間 6月～12月の半年間（全11日／約40時間）

■ 対象 女性20名

- 町内会やPTAなど地域で活動をしている方
- NPO法人や市民グループ、ボランティア等に所属し、活動している方
- 地域などでこれから活動を始めたいと考えている方

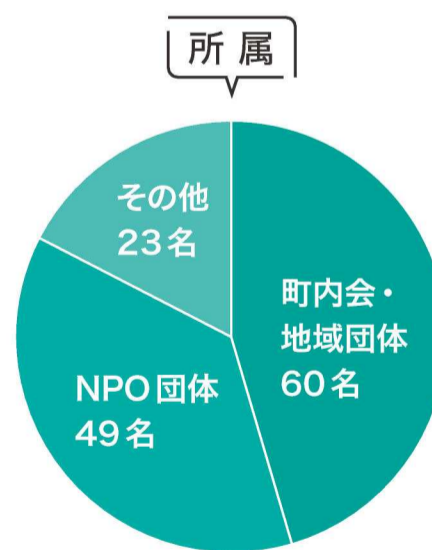
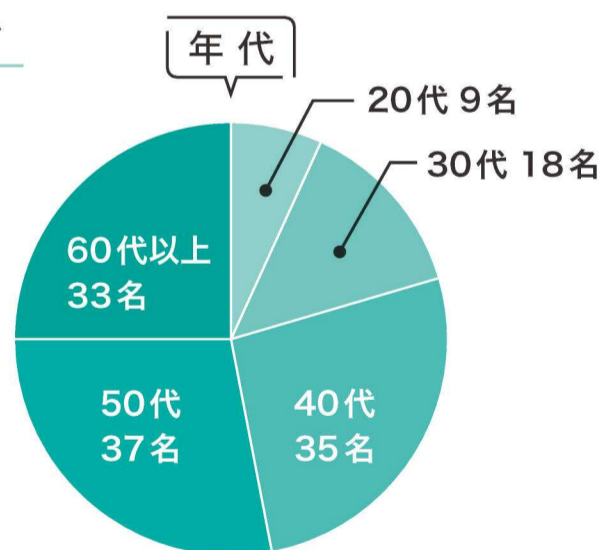
※団体からの推薦がある方を優先します。

■ 会場 仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台（被災地視察などのフィールドワークあり）

これまでの修了者

2016-2021年で

132名が修了



所属内訳

町内会、仙台市地域防災リーダー（SBL）、民生委員児童委員協議会、婦人防火クラブ、仙台市社会学級研究会、地区防犯協会、PTA、学校支援地域本部、生活協同組合、NPO団体（まちづくり、地域コミュニティ、子育て支援、生活自立支援、障害児者支援）、社会福祉協議会 など



詳細はこちら

「決める・動く」プログラムの特長

リーダーシップを発揮するための自信を獲得

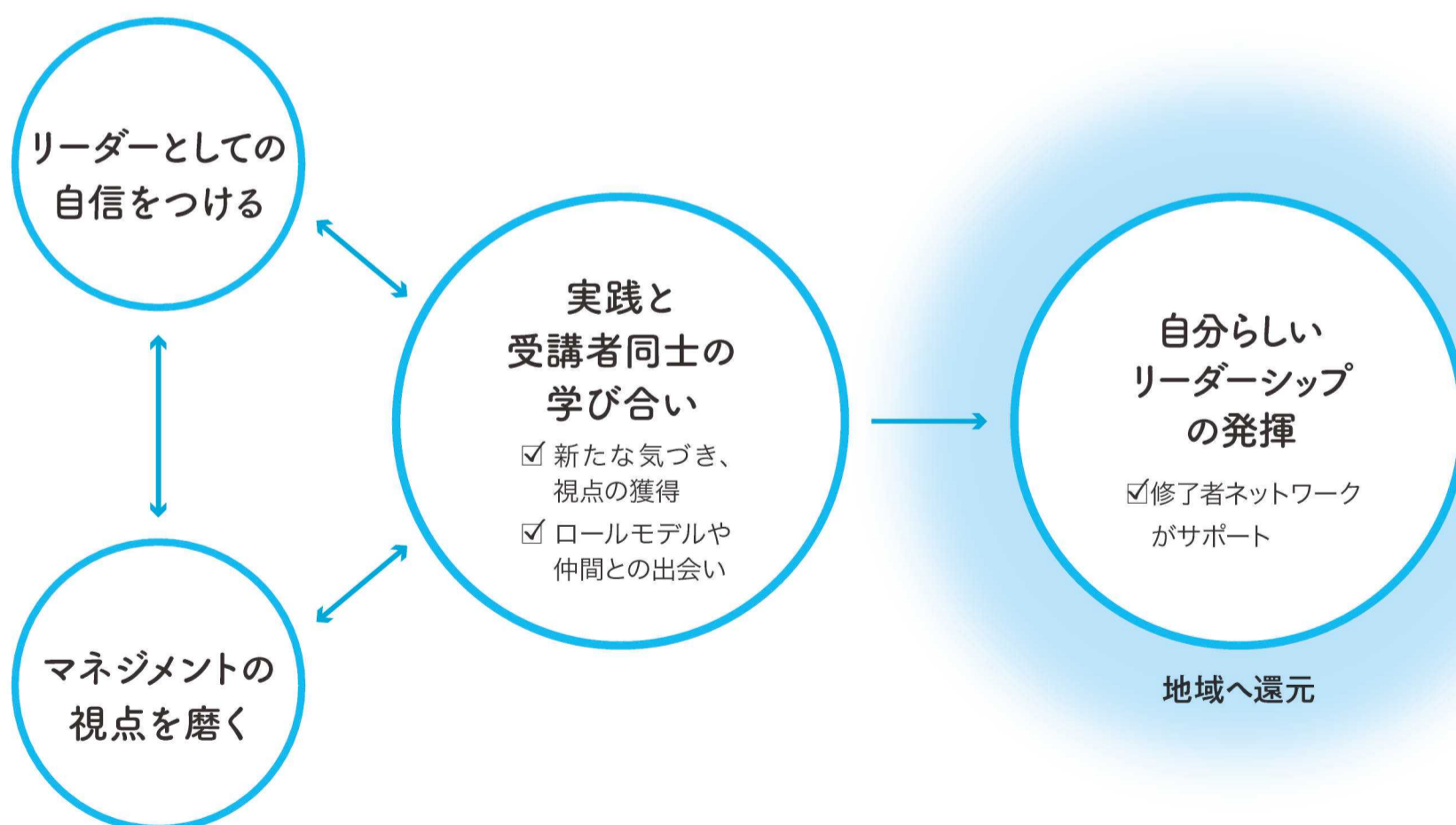
- 一人ひとりが自分の持っている力について理解を深める
- 自分の考えを人前で話すためのトレーニングを積み重ねる

マネジメントの視点を磨く講座内容

- 話し合いの場づくり、人を巻き込むコミュニケーション、物事を論理的に伝える方法など、成果を上げていくための力を磨く
- 多彩な講師陣やまちづくりに携わる女性リーダーの実践例からマネジメントの視点を学ぶ

実践トレーニングと受講者同士の学び合い

- 講座の学びを受講者それぞれが「現場」で実践
- 現場での実践を受講者同士で共有し、気づきをフィードバックし合う



「決める・動く」プログラム



オリエンテーション



被災地視察



女性まちづくり団体と交流



講座での学び合い①



講座での学び合い②



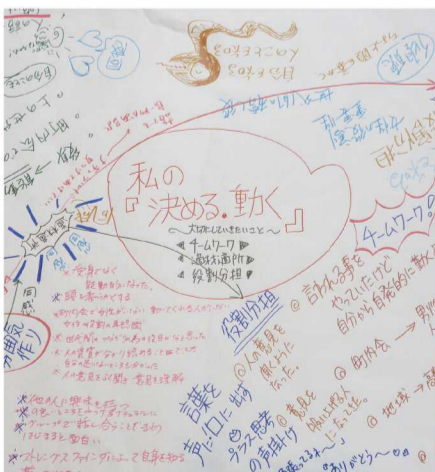
講座での学び合い③



修了式でのスピーチ



仙台市長からの修了証書授与



地域活動団体との交流会



ネットワークの結成

「決める・動く」修了者・推薦者の声

修了者の声

・活動に**自信**がつく

自分が何をしたいのか、何のためにやるのか、考えを深める機会になりました。活動に自信が持てるようになり、もっと多くの人へ発信していきたいと思えるようになりました。

(地域活動 40代)

・私も**リーダー**に

「リーダー」は自分には遠い存在だ感じていましたが、講座が進むにつれて「自分らしさ」「強み」「私にできること」が少しずつ見えてきて、リーダーは誰もがなれると実感できました。

(NPO団体 20代)

・学びを**行動**へつなげる

毎回講師からの課題があったことで、その時だけの学びで終わらせず、日々の業務に活かすためにやるべきことを考え、行動までつなげることができました。

(社会福祉協議会 60代)

・自分の**成長**を実感

自分でも驚いたのは、**その場で考えたことを人前で話せるようになったこと**です。これまで抱えていた分厚い壁を突破することができました。

(マンション自治会役員 30代)

・**次世代**へつなぐ

客観的に物事を見る目を養うトレーニングになりました。若い方々が地域の中で発言しやすい雰囲気を作り、世代交代できるよう仕掛けていきます。

(町内会役員 70代)

・多様な**仲間**との出会い

さまざまな場で活動する人たちと出会い、自分にはない視点や考えを得ることができました。また、活動中に孤独を感じることもあったけど、この場に来ると同じ思いで活動する女性たちに会えるので、とても励みになりました。

(民生委員児童委員 50代)

地域団体等からの推薦者の声

・学びを**組織の力**に

団体から毎年受講者を送り出しています。日常の中で大切な、話し合いやコミュニケーションの力を磨くことができるのが魅力です。現場に戻って他の仲間にも学んだことを伝え、組織に良い影響を与えてくれています。

(民生委員児童委員協議会)

・NPOと地域の**連携**

プログラムを通じて、町内会など地域で活動する方々との接点を持つことができました。住民の見守り活動など私たちの団体だけでは手の届かないところは、こうした方々と連携し、よりよい支援につなげていきたいと思っています。

(NPO団体)

・**つながり**を活動へ活かす

内部研修はこれまでも実施してきましたが、さまざまな分野の女性たちが集まり、学び合えるというのは貴重な機会です。この出会いを活かすことで、活動の幅がさらに広がっていくと感じています。

(生活協同組合)

「仙台防災枠組2015-2030」と「決める・動く」



第3回国連防災世界会議

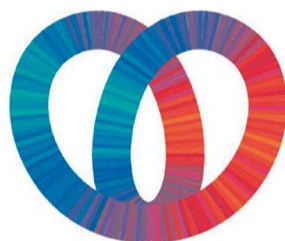
2015年3月14日～18日にかけて、仙台市で「第3回国連防災世界会議」が開催されました。本会議には187カ国の代表を始め、国際機関、研究者、NGO等6,500人を超える関係者が出席し、一般公開のパブリック・フォーラムには国内外から15万人以上の参加がありました。



詳細はこちら

《「女性と防災」テーマ館》

パブリック・フォーラムにおいて、エル・パーク仙台は「女性と防災」に関するテーマ館となりました。防災・復興と男女共同参画をテーマとした14のシンポジウムや展示等の関連企画を5日間にわたって展開し、延べ6,647名が来場。災害に強いまちづくりに向けた女性たちの取り組みを発信するとともに、東日本大震災で直面したジェンダーに起因する課題の解決に向けて、議論を深めました。



第3回国連防災世界会議 パブリックフォーラムテーマ館
女性と防災
Thematic Pavilion - Gender and Disaster Risk Reduction
WCDRR Public Forum



詳細はこちら



「女性と防災」テーマ館の様子

「仙台防災枠組2015-2030」とは？

第3回国連防災世界会議の成果文書である「仙台防災枠組2015-2030」は、2005年の第2回会議（兵庫）で採択された「兵庫行動枠組」の後継となるものです。2030年までの15年にわたる国際的な防災の取り組み指針として、世界各国で「仙台防災枠組」に基づいた取り組みが進んでいます。



詳細はこちら

「仙台防災枠組2015-2030」と女性のリーダーシップ

女性を防災・減災を担う主体とし、女性のリーダーシップを促進することを指導原則に位置づけています。

地域版女性リーダー育成プログラム「決める・動く」は「仙台防災枠組に関する自主的な取り組み（Sendai Framework Voluntary Commitments）」として国連に承認されています。



「決める・動く」修了者の活躍

仙台のまちづくりに声を届ける

仙台市が新総合計画（2021年度～2030年度）を策定する機会をとらえ、「決める・動く」の修了者を含むNPOや地域、企業など幅広い分野で活動する女性たちの声を集め政策提言を行う「新総合計画に仙台の女性たちが声を届けるプロジェクト」を実施。仙台の女性たちを取り巻く課題や、目指したいまちの姿について意見を出し合い、提言に練り上げました。提言書は2019年12月26日に郡和子市長に提出しました。



詳細はこちら



東日本大震災からの女性の取り組みを全国・世界へ発信

「仙台防災未来フォーラム」や「世界防災フォーラム/防災ダボス会議」では、災害に強いまちづくりに向けて、女性が地域でリーダーシップを発揮することの重要性を発信。「決める・動く」の修了者が取り組んだ防災まちづくりの事例を発表し、成果や課題を共有しています。



女性と防災コーナー

第3回国連防災世界会議でエル・パーク仙台が「女性と防災」テーマ館になったことを継承し、市民活動スペースの一角に「女性と防災コーナー」を設置しています。仙台防災枠組に明記された「女性のリーダーシップ促進」と「女性と防災まちづくり」の発信拠点として、ミニイベントや展示を実施。地域で活躍している修了者たちが自身の取り組みを発信しています。また、防災・減災に関する全国各地の様々な資料なども集めています。



詳細はこちら



修了者ネットワーク

受講年度ごとに結成される修了者ネットワークでは、お互いの活動を支援し合う関係が築かれており、それぞれの地域での活躍を後押ししています。